

民研 コロナ・パンデミック フォーラム

2020年12月26日 on Zoom

第4回 「コロナ禍での教育実践と教育の課題を考える」

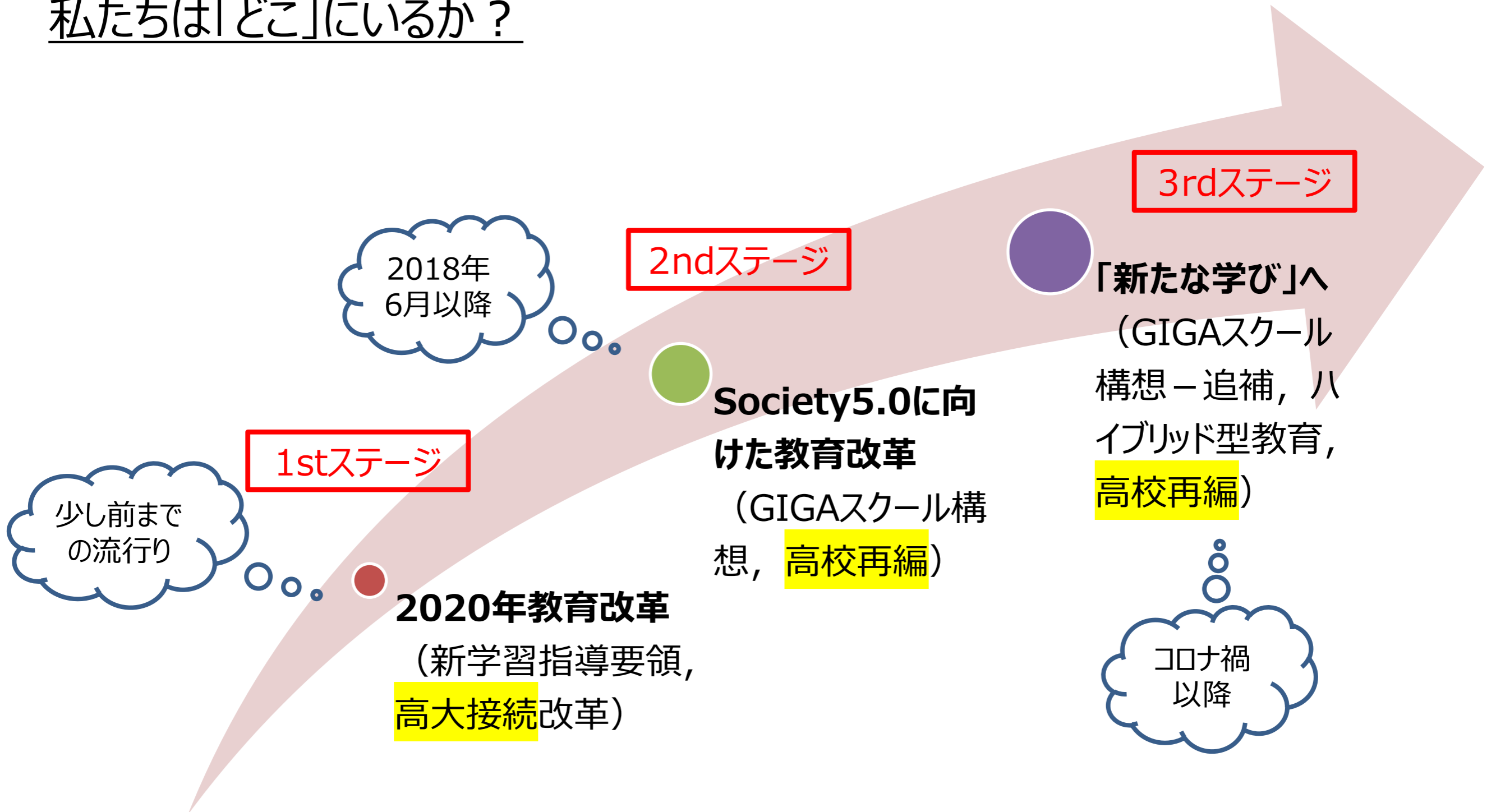
〈話題提供〉

高校，大学，高大接続から

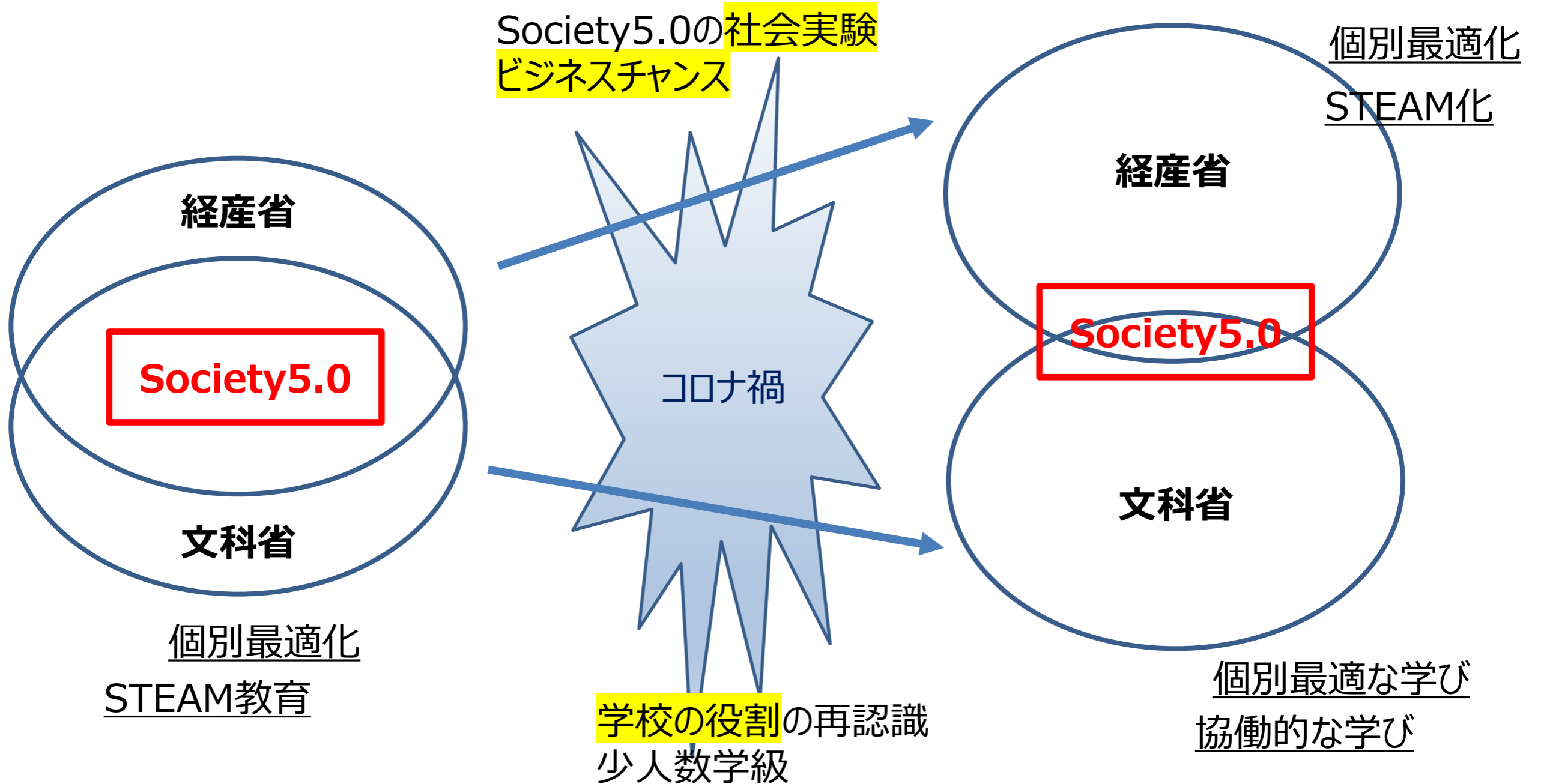
児美川 孝一郎

(法政大学)

私たちは「どこ」にいるか？



コロナ禍後の見取り図



高大接続改革とは何だったのか？

- 当初は、**産業界に役立つエリート人材の選抜・育成**のために、①**全体の底上げ**を図りつつ（質保証）、②**エリート選抜のための実効的な入試改革**を行い、③あわよくば、**高校教育と大学教育の刷新**をねらう、という目的
- 結果としては、**政策的な「脅し」**としては機能したが、入試改革としては、うまく機能しそうになかった
- であるがゆえに、**制度設計のボロ**の連続（英語民間試験、数学・国語の記述式、主体性）
- **民間事業者を公教育に導き入れる地ならし**として、ブルドーザーの役割
- 結局、当初の目論見は、**すべて「各大学の個別入試」**でというオチ（「大学入試のあり方に関する検討会議」）



Society5.0に向けた教育改革って？

国家主義
道徳・規範の強化
「生き方教育」の推

人材選抜・育成
国と大企業を「主体的」に
担う資質・能力の育成

これまで構図に、さらに
を持ち込むもの

学習の個別化 + 公教育の市場化（民営化）

新学習指導要領のもとでの市場化
将来的には民営化，学校教育の解体へ



教育再生実行会議「第11次提言」(2019.6)

- 「新学習指導要領において充実された**プログラミング**や**データサイエンス**に関する教育、**統計教育**については、**全ての児童生徒に基盤的学力**を習得させる」
- 「初等中等教育段階においては、**STEAM教育**・・・を推進する」
- 「国は、・・・**人材活用も含め産学連携**や**地域連携**による**STEAM教育**の事例の構築や収集、モデルプランの提示や全国展開を行う。また、グローバルな社会課題を題材にした、**産学連携STEAM教育コンテンツのオンライン・ライブラリー**を構築する」
- 「教育現場における先端技術の活用では**民間企業等との連携・協働**が非常に重要であり」

経産省の報告書の基本ライン？



- 「これからの高等学校は、**Society5.0 を生き抜くための力**・・・を育むことが求められています」
- 「全ての高等学校において、**教育理念を明確化**するとともに、教育理念に基づき・・・**生徒受入れに関する方針、教育課程編成・実施に関する方針、修了認定に関する方針**を定めることとする」
- （普通科の）<**類型**の例>
 - ①予測不可能な社会を生き抜くため**自らのキャリアをデザインする力**の育成を重視するもの
 - ②**グローバルに活躍するリーダー**や国内外の課題の解決に向け対応できるリーダーとしての**素養**の育成を重視するもの
 - ③**サイエンスやテクノロジー**の分野等において飛躍知を発見する**イノベーター**等としての**素養**の育成を重視するもの
 - ④**地域課題の解決**等を通じて体験と実践を伴った**探究的な学び**を重視するもの



中教審の始動 (2019.4)

- 教育再生実行会議の「**第11次提言**」が出されるより前の段階で、文科大臣が諮問

Society5.0時代の教育・学校・教師の在り方

- Society5.0時代には、①読解力や情報活用能力、②教科固有の見方・考え方を働かせて自分の頭で考えて表現する力、③対話や協働を通じて知識やアイデアを共有し新しい解や納得解を生み出す力等が必要
- 教師を支援するツールとして先端技術を活用し、①地理的制約を超えた多様な他者との協働的な学び、②一人一人の能力、適性等に応じた学び、③子供たちの意欲を高めやりたいことを深められる学びを実現
- 子供たちの学びの変化に応じた資質・能力を有する教師、多様性があり、変化にも柔軟に対応できる教師集団
- 「チームとしての学校」の推進



1. 新時代に対応した義務教育の在り方

3. 増加する外国人児童生徒等への教育の在り方

4. これからの時代に応じた教師の在り方や教育環境の整備等

2. 新時代に対応した高等学校教育の在り方

- 普通科改革など各学科の在り方
- 文系・理系にかかわらず様々な科目を学ぶことや、STEAM教育の推進
- 時代の変化・役割の変化に応じた定時制・通信制課程の在り方
- 地域社会や高等教育機関との協働による教育の在り方 等



コロナ禍のなかでの全国一斉休校 (以下, Society5.0改革「急進派」)

- 突然の愚策で, 日本中が, 経産省の「**未来の教室**」事業の社会実験の場に !?
- 学校向けの事業だけではなく, 学習塾等の**民間教育産業**の動きも

新型コロナウイルスによる学校休業対策

#学びを止めない未来の教室

経済産業省 教育産業室 より 緊急メッセージ

新型コロナウイルス感染症対策。
全国の学校の臨時休業が進むでしょうが、そんなときこそEdTechがその力を発揮します。

「学校が閉まっているからって、学びを止めないで済む」

そんな社会の実現に向けた挑戦だと、前向きに考えたらよいのではないのでしょうか。
経済産業省「未来の教室」プロジェクトでは、実証事業で一緒に汗をかいているEdTech事業者さんのみならず、日本の様々なEdTech事業者さんが動き始めた素敵な取り組みをご紹介します、一人でも多くの生徒さんたちに学びの機会を届けたいと思います。

※ 各社/団体のプライバシーポリシーをお読みの上、サービス利用をご判断ください。
※ 特に個人でご利用される場合、ご家族でよくご相談した上でのご判断をお願いします。

NEW
2020年03月02日
(23:57 / 12時間前)

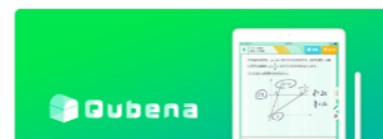
【株式会社しくみデザイン】
スプリング・フェス シーズン1
■個人への提供
■無料 (2020年3月2日 (月) ~4月5日 (日))
<https://www.shikumi.co.jp/springin-fes-2020-spring/>

詳しくはこちら

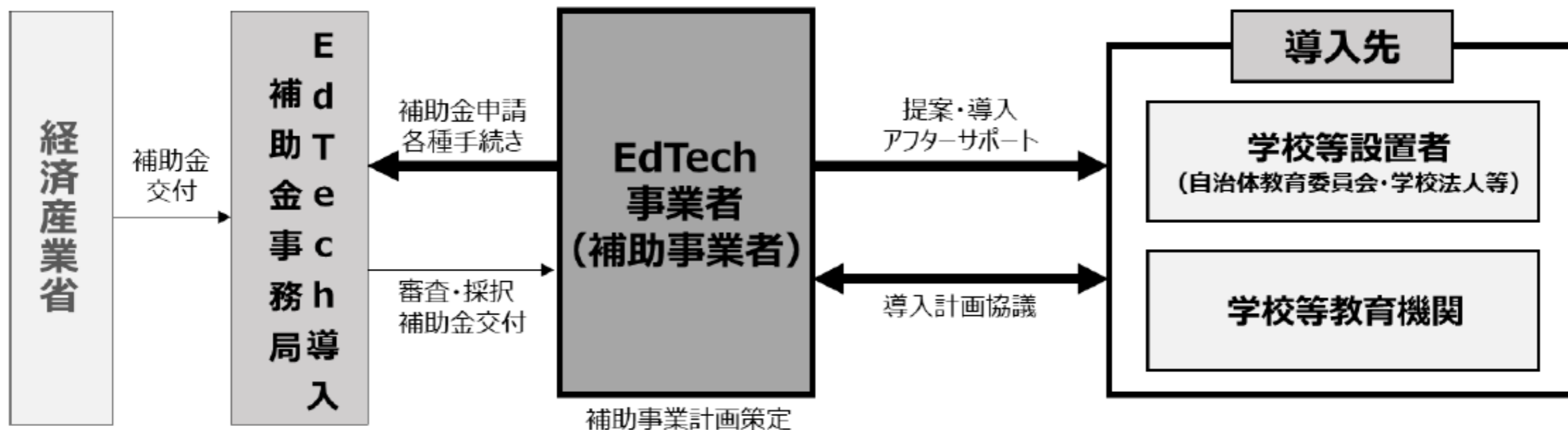


NEW
2020年03月02日
(23:40 / 13時間前)

【株式会社COMPASS】
「Qubena (キュービナ)」「Qubena Wiz Lite (キュービナ ウィズライト)」
■学校利用・個人利用 (両方)
■無料 (「Qubena (キュービナ)」: 2020年3月2日~次年度の学期開始まで / 「Qubena Wiz Lite (キュービナ ウィズライト)」: 2020年3月2日~)



2020年度「EdTech導入補助金」事業



申請件数 (単位：件)	学校等教育機関数 (単位：校)	補助金申請額(概算) (単位：百万円)
90	5,280	3,650

採択 (8.28)

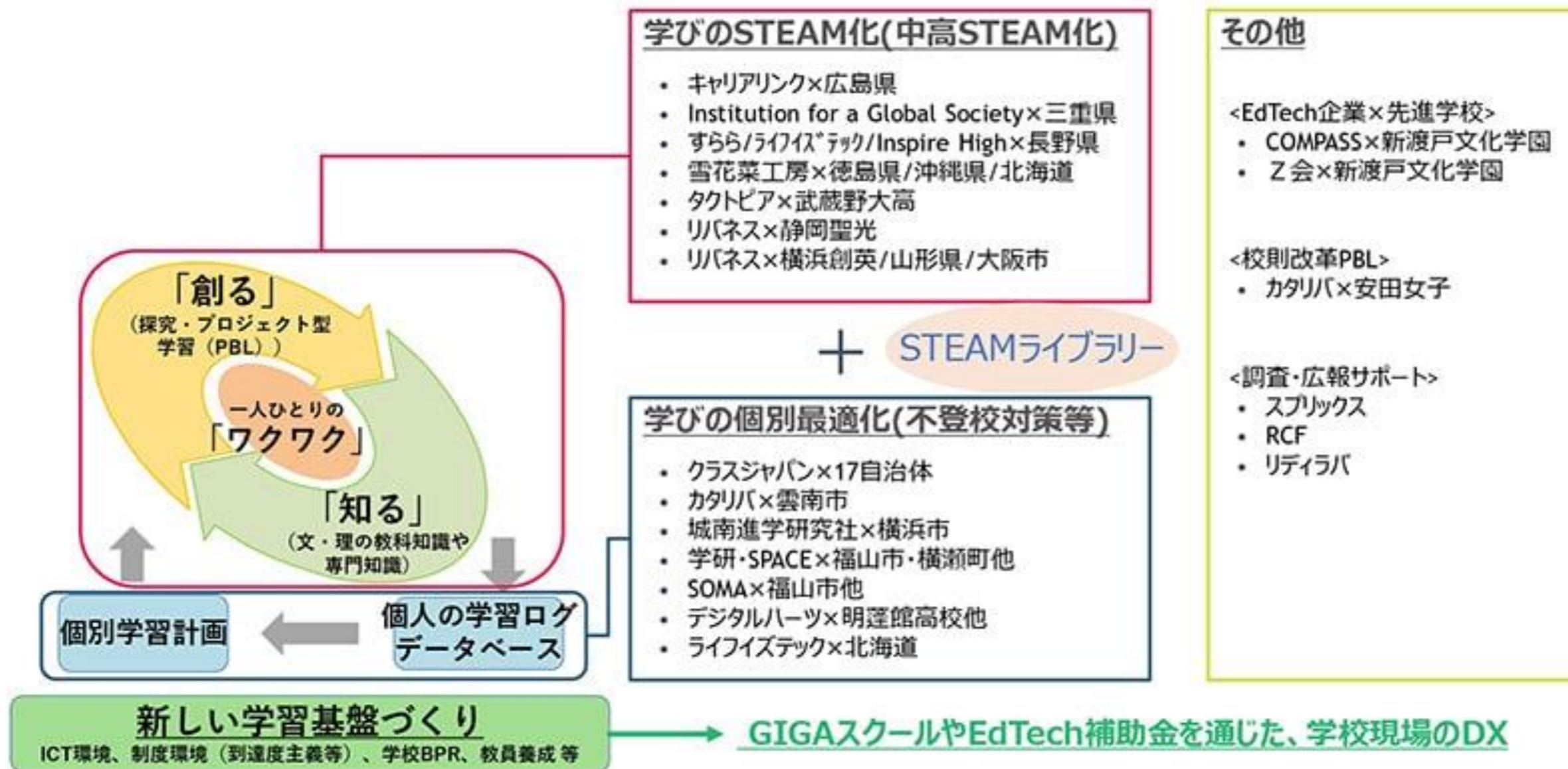
69件

学校数 **4300** (公立9割, 全学校数の12%)




2020年度は、2つの軸にフォーカスして、実証を実施

2020年度 「未来の教室」実証事業




2020年度「STEAMライブラリー」事業で採択したコンテンツの一覧（1/3）



CROSS FIELDS
360度映像で考える世界の社会課題とビジネス

- カンボジアの農村生活 / 世界の児童労働 / タンザニアの家庭生活 / 日本の海洋ゴミ問題を題材に
(地理×世界史×政治経済×国語)



産総研 **東京大学** **NEDO** **Britannica Digital Learning**

最先端研究を通じたSTEAM探究

- モビリティの現在と未来 / 予測医療とバイオハイブリッド / 廃棄物処理における微生物の役割 / ロボットによるケアの是非 / 水素燃料電池の最前線 / 「働かないアリの働き」とは？ ...
(情報×生物×数学×美術×社会...)



COMPASS Inc.

持続可能な水産資源・水産業

- 水産業・養殖を切り口に、「持続可能な資源活用」と「産業」の両立と、そこにおけるテクノロジー活用の可能性を探究 (社会×理科×数学)



KNOSPEAR

新国立競技場×サステナブルな街づくり


- 新国立競技場における取り組みを切り口に、「サステナブルなまちづくりに必要な新技術とアイデア」を探究 (生物×地理・歴史×物理...)



KyK **岡山大学**
OKAYAMA UNIVERSITY

新型コロナウイルス対策に関する「問い」


- ウイルスはこの世界に必要か？
(理科×社会×保健×情報×数学)
- 感染予防のためのマスク生活のデザイン
(美術×技術家庭×理科×社会)

SHARP **a.school**

企業のイノベーションを通じた社会課題解決


- 産業史や技術イノベーション (生物模倣、テレビ開発) を通じた課題解決・モノづくりを検討・実践 (政治経済×理科×数学...)



早稲田大学 **MIZUHO** **みずほ証券**
WASEDA University

社会における「お金・金融」の役割

- 家計など身近な領域から金融システムまでの「お金」の流れ、役割
- 貯蓄、投資、リスクとは何か？ (社会×数学)



JAL
JAPAN AIRLINES

航空産業の歩みと、気候変動を踏まえた今後の姿

- 「航空」が社会にもたらしてきた価値は何か？ (社会×数学)
- 気候変動を踏まえたような取組があるのか？ (物理・化学)
- 今後の航空産業の姿は？ (社会×理科×数学)



GIGAスクール構想の前だおし（2020年度補正予算）

- 児童・生徒への**端末**配置，ネットワーク環境整備，家庭での**オンライン学習**支援

G I G Aスクール構想の加速による学びの保障

追補版

目的 「1人1台端末」の早期実現や、家庭でも繋がる通信環境の整備など、「GIGAスクール構想」におけるハード・ソフト・人材を一体とした整備を加速することで、災害や感染症の発生等による学校の臨時休業等の緊急時においても、ICTの活用により全ての子供たちの学びを保障できる環境を早急実現

令和2年度補正予算額 2,292億円

児童生徒の端末整備支援

- 「1人1台端末」の早期実現 **1,951億円**
令和5年度に達成するとされている**端末整備の前倒し**を支援
令和元年度補正措置済（小5,6,中1）に加え、残りの中2,3、小1~4すべてを措置
対象 国立・公立・私立の小学校・中学校・特別支援学校等
補助率 国立・公立：定額（上限4.5万円）、私立：1/2（上限4.5万円）
- 障害のある児童生徒のための入出力支援装置整備 **11億円**
視覚や聴覚、身体等に障害のある児童生徒が、端末の使用にあたって必要となる**障害に対応した入出力支援装置の整備**を支援
対象 国立・公立・私立の小学校・中学校・特別支援学校等
補助率 国立・公立：定額、私立：1/2

緊急時における家庭でのオンライン学習環境の整備

- 家庭学習のための通信機器整備支援 **147億円**
Wi-Fi環境が整っていない家庭に対する貸与等を目的として自治体が行う**LTE通信環境（モバイルルーター）の整備**を支援
対象 国立・公立・私立の小学校・中学校・特別支援学校等
補助率 国立・公立：定額（上限1万円）、私立：1/2（上限1万円）
- 学校からの遠隔学習機能の強化 **6億円**
臨時休業等の緊急時に学校と児童生徒がやりとりを円滑に行うため、**学校側が使用するカメラやマイクなどの通信装置等の整備**を支援
対象 国立・公立・私立の小学校・中学校・高等学校・特別支援学校等
補助率 国立：定額（上限3.5万円）、公立・私立：1/2（上限3.5万円）
- 「学びの保障」オンライン学習システムの導入 **1億円**
学校や家庭において端末を用いて学習・アセスメントが可能な**プラットフォームの導入**に向けた調査研究

学校ネットワーク環境の全校整備 **71億円**

整備が可能となる未光地域やWi-Fi整備を希望し、令和元年度補正に計上していなかった**学校ネットワーク環境の整備**を支援
対象 公立の小学校・中学校・高等学校・特別支援学校等
補助率 公立：1/2

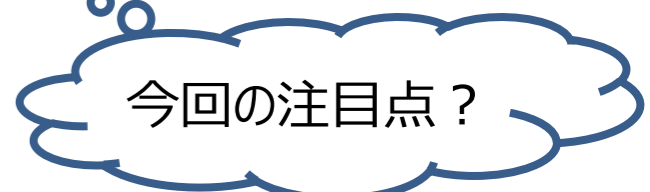
G I G Aスクールサポーターの配置 **105億円**

急速な学校ICT化を進める自治体等を支援するため、**ICT関係企業OBなどICT技術者の配置経費**を支援
対象 国立・公立・私立の小学校・中学校・高等学校・特別支援学校等
補助率 国立：定額、公立・私立：1/2

施策の想定スキーム

```
graph LR; A[文科省] -- 申請(取りまとめ) --> B[都道府県]; A -- 補助 --> C[市町村(小中学校等)・学校法人]; B -- 申請 --> C; B -- 補助 --> C;
```

※上記は公立及び私立のイメージ、国立は国が直接補助



「遠隔家庭学習も授業時数に」平井デジタル改革担当相

2020年9月30日

平井卓也デジタル改革担当相は9月30日、教育新聞などのインタビューに応じ、教育分野のデジタル化について、登校を原則としている義務教育段階においても、「（対面学習を）補うものとして、**自宅で（遠隔）学習した分も授業時数に含まれる**という可能性を第一に考えていくべきだ」と強調した。またクラウド上のデジタル教材の使用、学習データの利活用など、個別最適な学びに向け、「データの標準化やプラットフォームの議論をこれから、われわれがしていきたい」と意欲を見せた。

平井担当相は同23日のデジタル改革関係閣僚会議の席上、コロナ危機で浮き彫りになったデジタル化への課題の一つとして、教育分野に言及。今回のインタビューでは、「OECDの中でも（日本の教育の）デジタル化が遅れているのは明らか。高校や大学ではオンライン（授業）がニューノーマルになっているし、ならざるを得なかったということだったと思う」と現状認識を述べた。

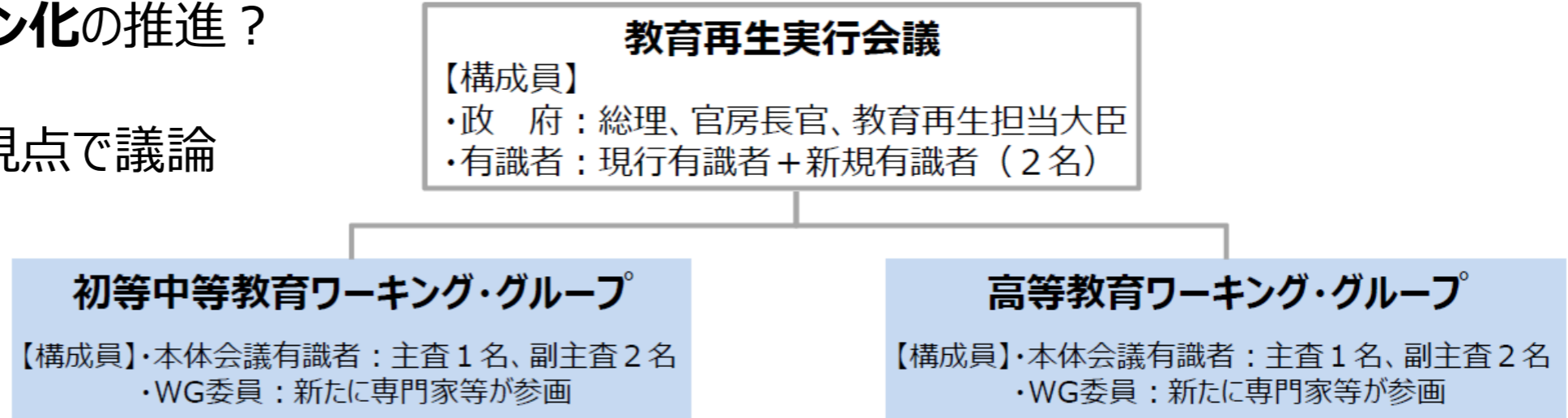


教育再生実行会議

- 2020年7月20日，再スタート
- テーマは，「ポストコロナ期における新たな学び」

- ねらいは，**ICT+オンライン化**の推進？
- 高等教育もターゲット
- 9月入学も，中・長期的視点で議論
- **少人数学級**も・・・

新たに検討するテーマについて：検討の枠組



経団連

- 「Society5.0に向けて求められる初等中等教育改革 第二次提言」(2020年11月)

I. 高等学校教育改革

(1) 現状の課題と改革の方向性

現状の課題

1 学習意欲・態度の二極化

2 文系・理系の分断

3 職業を知る機会の欠如

改革の方向性

特色・魅力ある教育

大学入試での文理分断の解消
STEAM教育の推進

キャリア教育の推進

I. 高等学校教育改革

(3) STEAM教育の推進、情報教育の充実

STEAM教育の推進

Society 5.0では、文理を越えた幅広い知識を基に社会課題を解決し、新たな価値を創造することが求められる



教科学習で得られた知識を実社会の問題発見・解決に活かすSTEAM教育の推進が重要

高校に求められる取組み

- STEAM教育の要素を取り入れた、新学習指導要領に基づく探究型学習を着実に実施
- 探究型学習では、地域のコミュニティや経済界、企業、大学等との連携も重要

大学に求められる取組み

- STEAM教育、探究型学習の成果が大学入試で適切に評価されるよう、総合型選抜など多様な入試を実施

情報教育の充実

新学習指導要領において、全ての高校生が必修科目「情報I」でプログラミングを学ぶようになることは評価

大学入試

- 教科「情報」を真剣に学んだ高校生が正当に評価されるために、
 - 大学入学共通テストの科目に「情報I」を導入、かつ、各大学は、大学入学共通テスト利用入試で、文理を問わず「情報I」を課すこと

教員養成・採用

- 教科「情報」を担当する教員の3割が専門の免許を持っていない現状を改め、
 - 教職課程において情報教育を専門的に指導できる教員を養成
 - 情報科の教員の採用枠を拡大
 - 特別免許(注)の活用促進により社会人の採用を拡大

「令和の日本型学校教育」の構築を目指して(中間まとめ)【概要】

～全ての子供たちの可能性を引き出す, 個別最適な学びと, 協働的な学びの実現～

学校における働き方改革や, GIGAスクール構想の実現といった動きも加速・充実させ, 新学習指導要領を着実に実施しながら, 従来の日本型学校教育を発展させた新しい時代の学校教育を実現する必要

個別最適な学び(「個に応じた指導」(指導の個別化と学習の個性化)を学習者側の視点から整理した概念)

それぞれの学びを往還

協働的な学び

指導の個別化

- 基礎的・基本的な知識等を確実に習得させるため, ICTの活用や専門性の高い教師によるより支援が必要な児童生徒へのより重点的な指導などによる効果的な指導
- 子供たち一人一人の特性や学習進度等に応じ, 指導方法・教材等の柔軟な提供・設定を行うとともに, 自らの学習を調整しながら粘り強く取り組む態度を育成

学習の個性化

- 基礎的・基本的な知識・技能や情報活用能力等の学習の基盤となる資質・能力等を土台として, 専門性の高い教師による個々の子供に応じた学習活動の提供
- 自ら学習を調整するなどしながら, その子供ならではの課題の設定, 子供自身による情報の収集, 整理・分析, まとめ・表現を行う等, 主体的に学習を最適化することを教師が促す

- 知・徳・体を一体的に育むため, 教師と児童生徒の関わり合いや児童生徒同士の関わり合いなど様々な場面でのリアルな体験を通じた学びやICTの活用による他の学校の子供たちとの学び合いなど
- 学校ならではの協働的な学び合いや, 地域の方々をはじめ多様な他者と協働した探究的な学びなどを通じ, 持続可能な社会の創り手として必要な資質・能力を育成

(2) ICTの活用や、対面指導と遠隔・オンライン教育とのハイブリッド化による指導の充実

① 学習履歴（スタディ・ログ）など教育データを活用した個別最適な学びの充実

- データ標準化等の取組を加速
- 個々の児童生徒の知識・技能等に関する学習計画及び学習履歴等のICTを活用したPDCAサイクルの改善を図り、きめ細かい指導や学習評価の充実や学習を改善
- 全国の学校でCBTを活用した学習診断などができるプラットフォームの構築
- 学校現場における先端技術の効果的活用に向けた活用事例等の整理・周知

② 全国的な学力調査のCBT化の検討

- 全国学力・学習状況調査のCBT化について専門的・技術的な観点から検討を行うとともに、小規模から試行・検証に取り組み、段階的に規模・内容を拡張・充実

③ 教師の対面指導と遠隔授業等を融合した授業づくり

- 学校の時間内において、対面指導に加え、目的に応じ遠隔授業やオンデマンドの動画教材等を取り入れた授業モデルの展開

④ 高等学校における遠隔授業の活用

- 同時双方向型の遠隔授業について、単位数の算定、対面により行う授業の実施等の要件を見直し、対面指導と遠隔授業を融合させた柔軟な授業方法を可能化

⑤ デジタル教科書・教材の普及促進

- 学習者用デジタル教科書の効果・影響について検証しつつ、使用の基準や教材との連携等も含め、学びの充実の観点から今後の在り方等について検討
- 令和6年度の小学校用教科書改訂までの間においても、学習者用デジタル教科書・教材の学校現場における使用が着実に進むよう普及促進を図る

⑥ 児童生徒の特性に応じたきめ細かな対応

- 不登校児童生徒、障害のある児童生徒、日本語指導が必要な児童生徒を支援しやすい環境の構築に向け、統合型校務支援システムの活用や帳票の共通化により、個別の支援計画等の作成及び電子化を推進
- 遠隔技術等を用いた相談・指導の実施、ICTを活用した学習支援、デジタル教材等の活用を推進
- 障害のある児童生徒に対する遠隔技術を活用した自立活動支援に係る実践的研究

⑦ ICT人材の確保

- 企業、大学等と連携し、地方公共団体がGIGAスクールサポーター、ICT支援員等のICT人材を確保しやすい仕組みの構築、人材確保・活用事例の全国展開
- 事務職員に対するICTに関する研修等の充実
- 教育委員会において、外部人材の活用も含めたICTの専門家の意思決定を伴う立場への配置促進、ICT活用教育アドバイザーの活用推進



(2) 高校生の学習意欲を喚起し、能力を最大限に伸長するための各高等学校の特色化・魅力化

- ① **スクール・ミッションの再定義（各高等学校の存在意義・社会的役割等の明確化）**
 - ・ 各設置者は、各学校の存在意義や期待される社会的役割等をスクール・ミッションとして再定義
- ② **各高等学校の入口から出口までの教育活動の指針として3つのスクール・ポリシーの策定**
 - ・ 各学校は、スクール・ミッションに基づき、「卒業の認定に関する方針」「教育課程の編成及び実施に関する方針」「入学者の受入れに関する方針」の3つのスクール・ポリシーを策定・公表
 - ・ スクール・ポリシーを起点として、教育課程や個々の授業、入学者選抜等の不断の改善を推進
- ③ **「普通教育を主とする学科」の弾力化・大綱化（普通科改革）**
 - ・ 約7割の生徒が通う普通科の特色化・魅力化を促進する観点から、「普通教科を主とする学科」として、普通科以外の学科の設置を可能化
 - ・ 例えば、SDGs等に関わる学際科学的な学びに関する学科や、地域社会が抱える課題の解決に向けた学びに関する学科など特色・魅力ある学科を各設置者の判断によって設置
- ④ **産業界と一体となって地域産業界を支える革新的職業人材の育成（専門学科改革）**
 - ・ 地域の産官学が一体となって将来の地域産業界の在り方を検討、高校段階での人材育成の在り方を整理し、それに基づく教育課程の開発・実践を実施
 - ・ 高等教育機関等と連携した先取り履修等の取組推進、3年間に限らない教育課程や高等教育機関等と連携した一貫した教育課程の開発・実施の検討
- ⑤ **新しい時代にこそ求められる総合学科における学びの推進**
 - ・ 多様な開設科目という特徴を生かすために、「産業社会と人間」を核として、他教科・科目等とのつながり及び2年次以降の学びを体系的に実施
 - ・ ICTも活用して他校の科目を履修して単位認定する仕組みの活用や、外部人材の活用を推進
- ⑥ **高等教育機関や地域社会等の関係機関と連携・協働した高度な学びの提供**
 - ・ 特色・魅力ある教育活動のために、地域社会や高等教育機関、企業等の関係機関との連携・協働が必要
 - ・ 地域の実情に応じ、コンソーシアムという形も含めて関係機関との連携・協働をコーディネートする体制を構築
 - ・ 複数の学校によって構成される学校間ネットワークの構築により、各地域において文系・理系にかかわらず高度な学びを提供可能とする取組を推進

(3) 定時制・通信制課程における多様な学習ニーズへの対応と質保証

- ① **専門スタッフの充実や関係機関との連携強化、ICTの効果的な活用等によるきめ細やかな指導・支援**
 - ・ SC・SSW等の専門スタッフの充実や関係機関等との連携促進
 - ・ 多様な学習ニーズに応じたICTを効果的に利活用した指導・評価方法の在り方等の検討
- ② **高等学校通信教育の質保証**
 - ・ 通信教育実施計画の作成義務化、面接指導等実施施設の教育環境の基準の明確化、面接指導は少人数を基幹とすべきことの明確化、教育活動等に関する情報公開の義務化等の方策を通じて質保証を徹底

(4) STEAM教育等の教科等横断的な学習の推進による資質・能力の育成

- 「各教科での学習を実社会での問題発見・解決にいかしていくための教科横断的な教育」とされるSTEAM教育について、STEAM分野が複雑に関係する現代社会に生きる市民として必要となる資質・能力の育成を志向する側面に着目し推進
- 「総合的な探究の時間」や「理数探究」との共通点が多く、新学習指導要領に基づき、地域や関係機関と連携・協働しつつ、生徒や地域の実態にあった探究学習を充実
- 幼児期からの科学的な体験の充実や、小中学校でも教科等横断的な学習や探究的な学習を充実

★ 中教審「中間まとめ」における高校改革について、端的な見解はこちら
をご参照ください！「日本経済新聞」2020年10月26日朝刊

- 迫力欠く答申
- 制度いじりでは限界
- 高校は「通過点」
- 学びの意味と意義を！
- 高校教育の本来の目的は？
- 現状でもできることから



「中間まとめ」における高校「改革」

- 目玉①？——**スクール・ミッション**の再定義，3つの**スクール・ポリシー**（卒業認定，教育課程の編成・実施，入学者受け入れの方針）の策定
 - 大学改革の「手法」のまま
 - 学校評価，予算配分，管理統制に使われていく怖さ
- 目玉②？——**普通科改革**（学際科学的な学びに重点的に取り組む学科，地域社会が抱える課題の解決に向けた学びに重点的に取り組む学科，特色・魅力ある教育を実現すると認められる学科）
 - 教育再生実行会議**「第11次提言」（2019）における「**類型**」導入を引きずっているだけ？
- **最悪のシナリオ**（→ICT化，オンライン化，STEAM化，学校と教員減らし，「N高モデル」の普及・・）は回避？



アナログすぎる日本の授業形式

高校生 後藤 悠

(東京都 17)

日本の学校の授業形式はあまりにも時代遅れ。そう感じるようになったのは私
が昨年、豪州の高校に留学してからだ。日本では非効率的な板書、ノート書きに日々時間を費やす。分厚い教科書や資料集の経費や重さ、学校のプリントを保管したり探したりする時間もばかにならない。

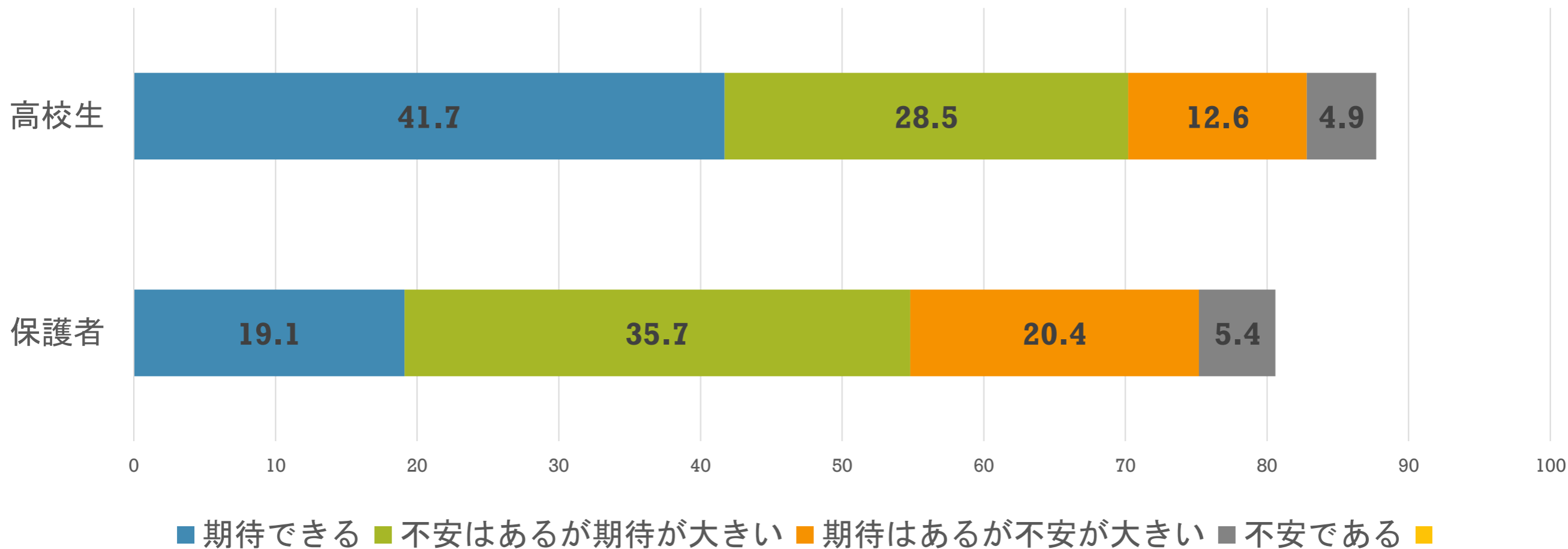
一方、豪州では生徒が一人1台、自分のノートパソコンを授業に持ち歩く。教

科書の内容はクラウドで保存され、先生からの様々な課題や資料もワードやエクセルなどの電子ファイルでやりとりし、必要な時だけ印刷する。ペンもあまり使わず、パソコン1台あれば用が済むことが多い。

だから豪州の高校生はパソコン知識やタイピングの速さなどが日本の同年代と比べ物にならない。社会で大幅にIT化が進んでいる中、日本の学校がアナログ式の授業を続けることに意味はあるのだろうか。



「ICT技術を活用し、一人ひとりが最適な学習内容と進捗で学べるようになる」



- 期待できる ■ 不安はあるが期待が大きい ■ 期待はあるが不安が大きい ■ 不安である ■
- 全国高等学校PTA連合会・リクルートマーケティングパートナーズ
- 「高校生と保護者の進路に関する意識調査2019」





オンライン授業で学びを止めるな

N高の生徒数、1万5千人に急増 難関校からの転入も 校長が語る「選ばれる理由」

[大学受験](#) [高校受験](#) [教育改革](#) [高校のあり方](#)

© 2020.04.22



柿崎明子

いいね!



ネットの高校であるN高の存在感が増している。2016年の開校から右肩上がりに入学者が増え、現在の生徒数は1万4700人に達している。なぜN高は多くの生徒や保護者に支持されるようになったのか。N高の本校がある沖縄県うるま市の伊計島から、奥平博一校長にZoomで話を聞いた。（写真はN高のVR〈バーチャルリアリティー〉入学式=同校提供）





ご清聴，ありがとうございました



komikawa@hosei.ac.jp